

2011(H.23)年度

野鳥博士入門(バードメイト)

みなさんは、「野鳥」と聞いて何を思い浮かべますか?「野鳥」というと、なんだか堅苦しい感じがします。しかし、ゴミをあさっているカラス(ハシフトガラス)も電線にとまっているスズメも野鳥にふくまれます(よく見かけるドバトは野鳥ではありません)。わたしたちの身近にも多くの野鳥が生活しているのです。この「野鳥博士入門(バードメイト)コース」では、身近な野鳥についてこの1年間いろいろなことを学びました。自然破壊が進んでいると言われる今日、野鳥たちの住みかはいぶぶ少なくなってきました。尊い野鳥たちの命を守るべく、わたしたちは立ち上がりました。それでは、今年度のこのコースの活動内容を紹介していきましょう!

今年度、このコースは、グループ毎の活動をするのではなく、19名全員で野鳥に関わるいろいろな活動をおこなってきました。例えば、校内の野鳥調査をしたり、えさ台を作ったり、京都市立動物園・鴨川(七条~四条)・巨椋池干拓地に探鳥会にも出かけ、それぞれの場所で多くの野鳥に出会いました。

校内野鳥調査

ほくたちは、校内に生息する野鳥を観察しました。野鳥がそこにいたという痕跡や巣のあとを見つけたりして、校内にどのような野鳥がやってくるのかを調査しました。調査した時期が、秋のはじめで暑さが厳しく、まだ野鳥の種類が少なかったのですが、校内に野鳥がいるという痕跡が多く見られました。今回調査したところ、サッカー部が練習しているグラウンドの奥に生えている木の上にハシフトガラスの巣を発見しました。次に、南校舎の裏の通路に野鳥ではありませんが、ドバトの羽根が落ちていました。それと、テニス部が練習しているオールドコートでハシフトガラスの羽根も発見しました。やはり、夏場の終わりで、まだ暑さが残っていたので、野鳥の種類が少なかったのが残念でした。そして、今回の調査であらためて冬場に調査することが望ましいと思いました。



動物園について

ほくたちは、野鳥の習性やどのような環境で過ごすのか、そして何より学校に野鳥がいっぱいこれる環境づくりをするために、京都市立動物園に行きました。ここには、たくさんの種類の鳥がいました。その中でも、特に学校に来そうな野鳥をしっかりと観察し、今後の野鳥博士入門コースの活動に活かしました。それに、今まで見たこともないような野鳥もたくさん見ることができました。身近なものでは、シジュウカラ・スズメ・メジロ・ムクドリなども観察でき、より一層、このコースの活動に熱が入りました。

巨椋池干拓地探鳥会

ほくたちは、9月に向島にある巨椋池干拓地へ探鳥会に行きました。巨椋池は、かつて京都盆地のもっとも低い所に位置し、桂川・宇治川・木津川が混入していました。1544年、豊臣秀吉が伏見城を築いた時、宇治川の流路を変更したときから遊水池として使われ、コイ・フナなどの淡水魚漁でも知られていました。1933年から1939年にかけて干拓工事がおこなわれ、水田となり、今でもポンプによって常に排水されています。ほくたちは、ここで野鳥を見つけ、その観察をおこないました。近鉄向島駅を出て、用水路に沿って田んぼのまわりを歩いていくと、スズメ・キジバト・ハシボソガラス・ハシフトガラスはもちろん、コサギやアオサギ、カルガモなどの野鳥に会うことができました。これらの野鳥は、学校の中でも見れるような野鳥たちですが、自然の中で見ると、群れになっていたり、活発に動いていたりして、とても面白かったです。今回の探鳥会では、あまり珍しいものは見られませんでした。普段は多くの野鳥が見られるそうなので、みなさんも是非一度行ってみてください。



えさ台づくりについて

ほくたちは、附属桃山中学校がいろいろな野鳥でいっぱいの自然豊かな学校になるように1人1つのえさ台をつくりました。つくられたえさ台は、中庭周辺と校門横の石垣の上を中心にたくさん設置しました。それぞれ人によって作るえさ台が違うので、とても意欲的に製作することができました。その甲斐あって、一部のえさ台に野鳥(スズメ・ヒヨドリなど)が来ているのが確認できています。「スズメか~!」と思う人もいるかも知れませんが、警戒心の強いスズメがえさ台に来るといことは、とてもすごいことなので、直ぐに他の野鳥も来るといいます。えさ台がつぶれるまで設置しておきますので、遠くから野鳥を驚かさないように観察してみてください。

鴨川探鳥会

わたしたちは、12月14日に鴨川に行きました。鴨川には、たくさんの可愛いユリカモメが自由に空を飛びまわっていました。石の上にとまっているものや橋の上で休んでいるものもありました。わたしたちは、家からパンを持ち寄り、ユリカモメにあげました。最初は、ユリカモメが怖がって近づかないのではないかと心配していました。しかし、パンを見せる前から集まってきたので、ビックリしました。とてもおいしそうに食べていました。仲間の一人が、飛んでいるユリカモメにパンをあげようとして、手を上に伸ばすと、上空からとてつもなく速いスピードでトビが飛んできて、パンをさらっていきました。わたしたちは、この大胆な行動にとっても驚かされました。寒い日でしたが、ユリカモメや他のカモたちとふれあい、心が暖かくなりました。わたしたちは、野鳥たちのおかげで非常に充実した時間を過ごすことができました。機会があれば、また行きたいです。みなさんも是非一度行ってみてください。

